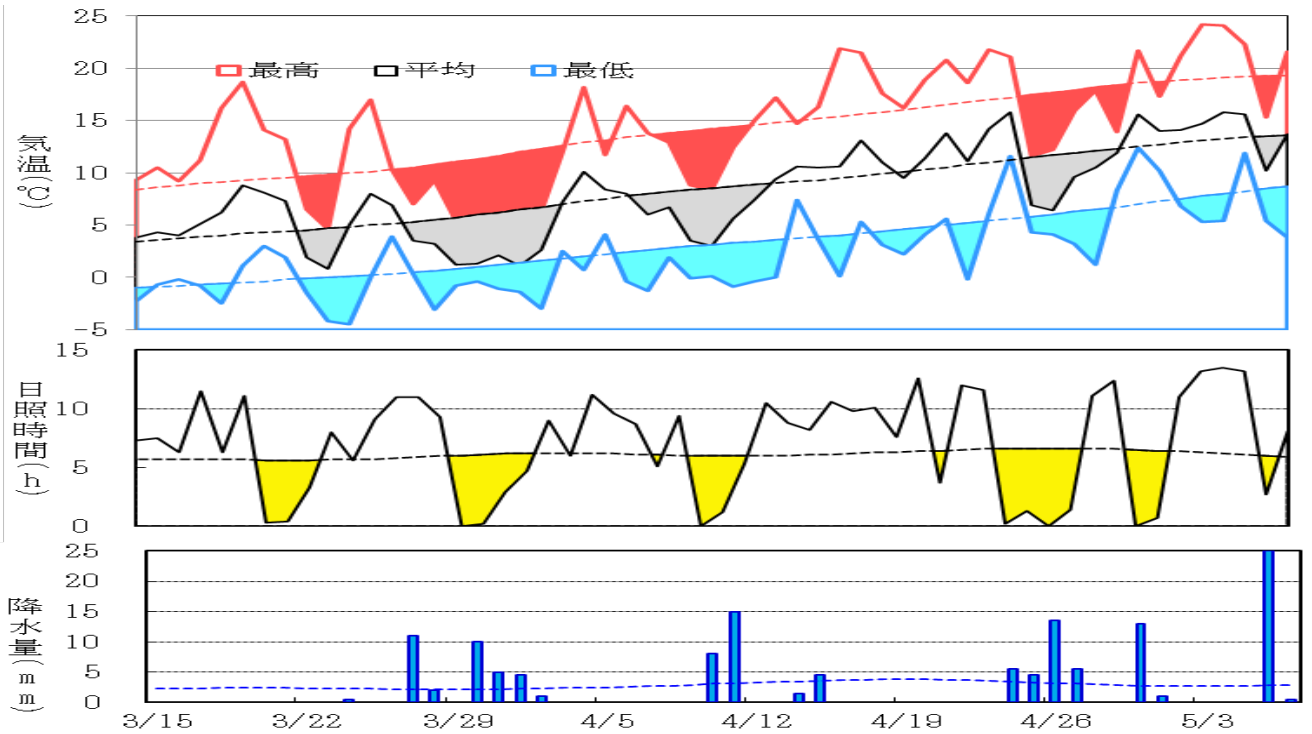


～育苗期は病害少なく、田植も順調に進む見込み！！～

1 気象経過



- ・ 3月中旬～下旬の種子の浸漬時は、一時低温であったが、前半高温傾向で後半は低温であった。
- ・ 4月の育苗期間中は、第1半旬が低温で、その後高温傾向に推移し、第6半旬は低温であった。
- ・ 日照時間は、平年並み～やや多照傾向であった。
- ・ 降水量は、断続的に多雨となったが、期間を通しては、平年並～少雨傾向であった。

2 育苗・田植状況

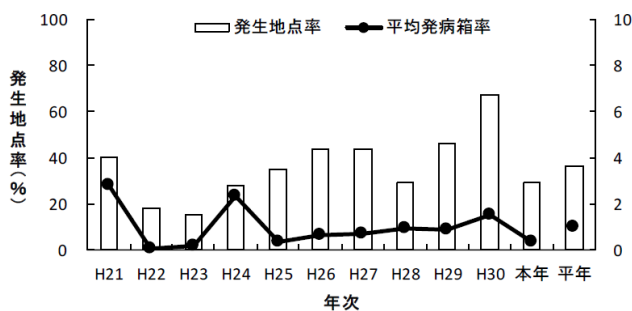
(1) 播種育苗状況

- ・ 播種盛期は4月12日で、平年より1日遅く、前年と同時期であった。
- ・ 播種終期は4月20日で、平年より1日早く、前年より2日早くなった。

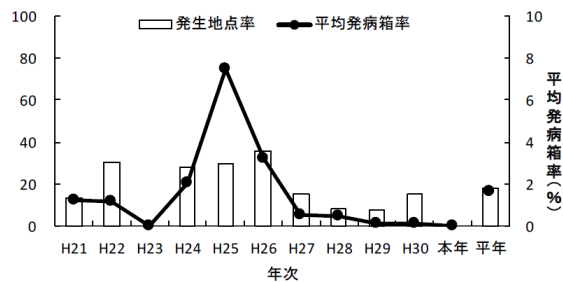
本年	4月3日	4月12日	4月20日
前年	4月4日	4月12日	4月22日
平年	4月2日	4月11日	4月21日

- ・ 4月上旬の低温により、出芽不揃いとなり、カビ等の発生が散見されたが、その後は天候の回復で概ね順調な育苗経過をたどった。
- ・ ばか苗病の発生地点率は29.3%(平年36.7%)で並の状況、発病箱率は0.36%(平年1.03%)となり、過去5か年で最も低い状況だった。
- ・ 床土に苗立枯病菌のカビ(リゾプス, トリコデルマ, フザリウム, リゾクトニア)が確認された

ものの、苗立枯病及び細菌性苗腐敗症ともに、過去10年で最も低かった。



ばか苗病の発生地点率及び平均発病箱率
※平年:過去10か年の平均



苗立枯病の発生地点率及び平均発病箱率
※平年:過去10か年の平均

(2) 田植状況(5月7日現在)

- ・田植進捗率は23.6%で、田植始期は平年より1日遅い5月4日であった。
- ・5月3日から5日にかけては比較的好天に恵まれ、県内の田植は概ね順調に進んでいる。
- ・進捗率では、大崎地区が36.3%と最も進んでおり、栗原や気仙沼が数%となっている。

地区名	水稲作付見込面積 (ha)	5月7日現在実施状況		田植(月日)			(参考)H30年度		
		田植面積 (ha)	進捗率 (%)	田植始期	田植盛期	田植終期	田植始期	田植盛期	田植終期
大河原	6,732	1,533	22.8	5/4	-	-	5/5	5/12	5/23
仙台	12,096	2,694	22.3	5/3	-	-	5/3	5/10	5/25
大崎	18,246	6,628	36.3	5/2	-	-	5/1	5/10	5/20
栗原	8,978	531	5.9	5/5	-	-	5/5	5/13	5/22
登米	9,796	1,745	17.8	5/5	-	-	5/5	5/13	5/21
石巻	7,501	2,004	26.7	5/4	-	-	5/2	5/11	5/20
気仙沼	912	30	3.3	-	-	-	5/10	5/15	5/23
県計	64,261	15,164	23.6	5/4	-	-	5/3	5/11	5/22

3 今後の管理

(1) 田植時の管理

- ・田植直後は葉先が2~3cm出る程度の深水とする。
- ・その後は低温や晩霜の場合には水深5~6cm、それ以外は水深2~3cmの浅水とする。
- ・水温、地温の上昇を図り、活着を早め、極端な深植え、浅植えや、大苗にしない。
- ・品種の特性にあった栽植密度とする。
- ・除草剤の決め手は、水管理である。効果を確実なものとするには、5cm程度の水深を確保し、7日間水深を維持することが重要である。
- ・雑草の葉齢に合わせて処理適期に散布し、同じ雑草が残るようになら連用せず、初期除草剤との体系処理を行う。

